



学校教育目標

八瀬の伝統と文化を受け継ぎ、未来に向かってたくましく進む子

目指す子ども像

- 予想を立て、筋道を通して考え、確かめる子
- 社会とのつながりの中で豊かな人間性を育む子
- 自分の体を正しく理解し、体力向上と健康を意識した生活を送ろうとする子

●学校教育目標について

「八瀬の伝統と文化を受け継ぎ」～八瀬に育つ子としてのアイデンティティーの確立～
 「未来に向かって」～グローバル化、情報化、技術革新等がめまぐるしく変化し、将来の変化を予測することが困難な時代を生きるために求められる力の獲得～
 「たくましく進む」～「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成をはかる。～

●「八瀬」に育つことを誇りに思って欲しい。そして社会と関わり、世界と繋ろうとする子へ

八瀬の伝統・文化、そして地域社会の良さを学び、感じることで、八瀬に育ち・学んでいることを誇りに思って欲しいと思っています。そしてその思いを基にして、自分がより大きな社会（京都から世界へ）と関わっていることを感じられるような子に育って欲しいと願っています。

学校では、八瀬地域に関わる学習を充実させます。また、子どもたちには、自分たちが社会と関わっているという実感が持てるよう、地域や社会と直接関わる行事等への参加を積極的に勧めます。

★お家の方へー自分のことは自分でしようとする子へー

先ず、「子どもは一人前ではないから子ども。」「子どもは未完成だからこそ“その子自身”が確立するよう、それまでは周りの大人が関わり、育てなければならぬ存在である。」ということです。

そしてこれから時代を生きる子どもたちに育てるべきは「主体性」と「協働できる力」です。そのためのキーワードが「自分のことは自分でしようとする子」だと考えます。

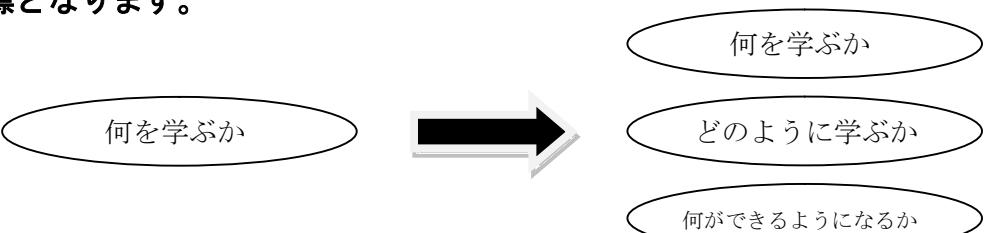
自分でできることはやらせましょう。子どもができると思うことはやらせてみましょう。

- 本当はできることなのに親（教師も）が先回りしてやらないでください。
(自分でしようと思わなくなる。してもらって当たり前、いつまでもできないまま…)
- できそうにないことは手伝ってあげてください。できそうにないことまで「自分のことだから自分でしない」とは言ってやらないでください。
(これも自分でしようとしなくなる。できないことなのにできないと叱られる、これはきつい。逆に、できないことを助けてもらった経験は、困っている友だちを手助けしようとする態度に繋がります。)

●校長から

新しい学習指導要領が来年（令和2年度）から実施されます。学習指導要領とは、日本の学校教育の目指すべき方向性と学校で行う教育の内容を示したもので、およそ10年に一度、子どもたちが社会で活躍するころの未来を見据えて改訂されるものです。ちなみに、今回の改定は戦後最大の改訂とも言われ、学習の在り方や、さらには学校の在り方までもがこれまでとは変わっていくべきとされています。この新しい学習指導要領を実施するための準備が、始まっています。今年度は新しい教育に向けての準備の最終段階となります。そこで、今後教育がどのように変わっていくのかについてお伝えしたいと思います。

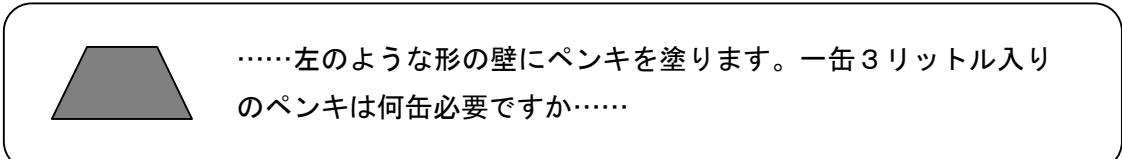
☆「何を知っているか」だけでなく「知識をどのように学び、その結果何ができるようになるのか」までが学習の目標となります。



「大化の改新は645年」「三角形の面積は 底辺×高さ÷2」的な知識は、今後役に立たなくなるでしょう。

※ 全国学力調査でA問題がなくなったことの持つ意味（文部科学省の本気度の表れ）

→ では、「三角形の面積は 底辺×高さ÷2」は知らないでよいのでしょうか？ そうではありません。

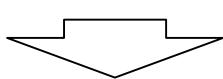


このような問題を解決するためには「三角形の面積の求め方の知識」が必要です。【何を学ぶか】
自分たちで解決するために何をどうすればいいのだろう？

「一人で考える。」「友だちと一緒に考える。」「調べる。」「知っている人に聞く」等

→ 先生の指示ではなく自分(たち)の考えで解決に向かう（アクティブラーニング）

先生は答えを導くための指示（「対角線を一本ひいてみよう。何か気づくことはないかな。」）ではなく、解決に向かうための方法（「友だちと一緒に考えてもいいよ。」「誰に聞いたらヒントがもらえると思う？」等）を提示する。【どのように学ぶか】



子どもたちは、この問題を解決する過程で『台形の面積を求める方法を獲得』します。【何ができるようになるか】

（裏面に続きます）

からの子どもたちに大切なことは『学ぼうとする姿勢』『知っていること（知識）を組み合わせて新たなことを生み出す力』です。

学校の授業はこれまで通りの「自ら学ぶことができるための知識をきちんと身につけるための授業」とともに、『子どもたち自身が、学び方を学びながら課題解決の過程で新たな知恵や知識を獲得していくような授業』もどんどん増えていきます。

授業が変わります

★学習・勉強について

勉強は学校だけでOK…という時代ではなくなりました。家でも勉強する習慣をつけましょう。

からの時代を生きていく子どもたちに必要な力は、これまでのものとは変わってきています。学校では、新しい学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」を生み出すような授業を行い“学校だからこそできる学習”，言い換れば、仲間とともに学びながら、個々の力を伸ばしていく学習を重点的に進めていきます。（**授業が変わります。**）そのため、「家庭でできる学習（先生がいなくてもできる学習）」「家庭だからこそできる学習（学校ではあつかわないジャンルの学習）」については、家庭学習を通して行えるように親御さんのご協力もお願いします。ものすごいスピードで変化していく社会では「常に学び続ける」ことから逃げることはできません。『学ぼうとする姿勢』を育てるためには学校・家庭・地域それがそれぞれの役割を果たすことが大切で、垣根はありません。「勉強は学校でするもの」というのは過去のことだと考えてください。家庭では「宿題+α」を学年に応じて行う習慣をつけてほしいです。**学年に応じた知識技能（基本的な読み書き計算）を定着させたり、個に応じて発展（学校で学んだ「学び方」を使って自分の興味関心のあることについて学びを深める）**させたりするのが家庭学習だと考えていただければと思います。

◎今年度の八瀬小学校の取組

* 外国語活動（英語）を1・2年生にも拡大します（年間、1年生10時間・2年生15時間）。

* 学習の様々な場面でICT機器を積極的に活用します。

* 様々な教科でプログラミング教育を推進します。

今年度八瀬小学校は教育委員会より昨年度に続き「平成31年度新学習指導要領の実施に向けた実践研究校（教科等の指導内容を意識したプログラミング教育の授業実践）」の指定を受けました。プログラミング教育で京都をリードする学校を目指します。今年度は11月29日（金）に研究発表会を開催いたします。

* 八瀬LABO（興味関心に応じて研究開発活動に取り組めるスペース）を設置し、放課後自由にプログラミングやトイコンテストのマシン作りに取り組めるようにします。

* 夏休み中の行事および土曜学習、休日に行われる外部イベントへの参加については、以下の通り行います。

* 夏休みの取り組みについては前半に「チャレンジ学習」「金管バンド」を行い、プール学習は7月中の実施とします。

* 土曜学習はプログラミング、百人一首、お茶会を実施します。トイコンテストについては希望者を募り、放課後等に取り組みを支援します。

* 「金管バンド関係行事」および「部活動の支部大会・全市大会」にはこれまで通り参加します。

* 「トイコンテスト」には保護者の協力を得ての参加を検討しています。

* 「五色百人一首大会」については、案内のみ行います。

◎お願い

学校は「家庭の延長」ではなく「子どもたちが初めて所属する小さな社会」です。学校の存在意義は『社会への準備段階であると同時に、学校そのものが、子供たちや教職員、保護者、地域の人々などから構成される一つの社会でもある。子供たちは、学校も含めた社会の中で、生まれ育った環境に関わらず、また、障害の有無に関わらず、様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持つことができる。（文部科学省中央教育審議会教育課程企画特別部会における論点整理より）』ことにあります。私たち教職員は、この学校の意義を肝に銘じて子どもたちの教育に取り組みます。保護者の皆様にもこの学校の意義をご確認いただき、共に子どもの育ちを支えていただきたいと願っています。

これからは“「学校」「家庭」「地域」がそれぞれの役割を果たしながら互いに連携して子どもを育てていく”ことがより一層重要となります。上記「今年度のお知らせ」にも一部ありますように、未来志向の「新しい学校」作りを目指して「学校だからできること」「学校がすべきこと」を見極め、これからを生きる子どもたちに必要な力をしっかりと育てるために、教育課程や行事、各種取組の見直しを「学校の働き方改革」の視点も含めて取り組んでいきます。つきましては、これまで以上に保護者の皆様のご理解・ご協力をいただくことにもなろうかと思います。なにとぞよろしくお願ひいたします。

***忘れ物（宿題も含め）のないようご協力をお願いします。**

“痛い目に遭えば本人が気づく”は過去の話です。学校は忘れ物をしたからといって痛い目に遭わすことはありません。（一方でそれに対応している間授業がストップし、他の子が待たされているということをご理解ください。）ご家庭の方針等おありかもしれません、学校生活は社会生活への適応の場であるという観点から、学校に関わることについては“本人が気づくまで手を貸しません”という判断はなさらず、本人ができないのであれば何年生であってもお家でフォローをお願いします。宿題についても「出された宿題はやる」が大原則です。やらなくてはならないことを「やりたくないからやらない。」というのは社会では通用しません。子どもにとっての宿題はこのような態度の育成という意味も持っています。ただし、「やらなければ。」と思っているにもかかわらず宿題の内容や量などがその子の過度の負担になっているようであれば、遠慮なくご相談ください。

***配布プリントは必ずきちんとお読みください。また、提出物は期限内に提出いただきますようお願いします。**

学校が配布しているプリント類には必ず目を通してください。時々「子どもが出さなかつたので見ていないかった。」という声を聞くことがあります、親御さんにそう言われると学校としては困ってしまいます。子どもですから、そういうことがきちんとできないことも当然あります。学校からプリントをもらってきていないか、子どもに声をかけたり、時には、保護者がカバンの中を確かめたりしていただきたいと思います。このあたりはしっかりとアンテナを張っていただければと思います。また、提出物の期限についてですが、期限を過ぎてもなんとかなっているとすればそれは誰かが特別に追加で対応しているからです。子どもが“期限を守らなくても何とかなる”と思ってしまうと、社会では大きな失敗に繋がりかねません。提出物の期限を守ることの大切さもお家で示してやってください。

厳しいお願いが多くなりましたが、これらは子どもたちの学校生活や授業をスムーズに進め、より充実したものとするためのお願いだと捉えていただければ幸いです。また、これから学校は私たちの記憶にある学校とはちがったものに変わっていくと思います。そのため、学校で何が取り組まれているかをできるだけ発信していく必要があると考えています。ホームページをはじめ、様々な形で情報提供していきますので、新しい学校づくりへのご理解とご協力ををお願いいたします。

ともやさんは、 $421 - 298$ や $600 - 201$ のようなくり下がりのあるひき算について、次のように計算しやすい式にして考えました。

【ともやさんの計算の仕方】

$$\begin{array}{r} 421 - 298 = \boxed{\text{■}} \\ \downarrow +2 \quad \downarrow +2 \quad \text{変わらない} \\ 423 - 300 = 123 \end{array}$$

だから、 $421 - 298$ の答えの $\boxed{\text{■}}$ は、123です。

$$\begin{array}{r} 600 - 201 = \boxed{\text{■}} \\ \downarrow -1 \quad \downarrow -1 \quad \text{変わらない} \\ 599 - 200 = 399 \end{array}$$

だから、 $600 - 201$ の答えの $\boxed{\text{■}}$ は、399です。

小算-11



【ともやさんの計算の仕方】を見ると、ひき算では、ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、差は変わらないですね。

(1) 【ともやさんの計算の仕方】をもとに、 $350 - 97$ について、計算しやすいようにひく数の97を100にした式で考えます。

$$\begin{array}{r} 350 - 97 = \boxed{\text{■}} \\ \downarrow \quad \downarrow \quad \text{変わらない} \\ \boxed{\text{①}} - 100 = \boxed{\text{②}} \end{array}$$

だから、 $350 - 97$ の答えの $\boxed{\text{■}}$ は、 $\boxed{\text{②}}$ です。

上の①、②、③に入る数を書きましょう。

ゆいなさんは、くり下がりのあるひき算を計算したときにもとにした考え方をふり返って、次のようにまとめました。

【ゆいなさんがまとめたこと】

ひき算では、
ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、
ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、
差は変わりません。
このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

ことねさんは、 $400 \div 25$ や $90 \div 18$ のようなわり算についても、計算しやすい式にすることができると思い、下のように考えました。

【ことねさんの計算の仕方】

$$\begin{array}{r} 400 \div 25 = \boxed{\text{■}} \\ \downarrow \times 4 \quad \downarrow \times 4 \quad \text{変わらない} \\ 1600 \div 100 = 16 \end{array}$$

だから、 $400 \div 25$ の答えの $\boxed{\text{■}}$ は、16です。

$$\begin{array}{r} 90 \div 18 = \boxed{\text{■}} \\ \downarrow \div 9 \quad \downarrow \div 9 \quad \text{変わらない} \\ 10 \div 2 = 5 \end{array}$$

だから、 $90 \div 18$ の答えの $\boxed{\text{■}}$ は、5です。

小算-12

小算-13

(2) ひき算について書かれた【ゆいなさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめる、どのようにになりますか。

下の〔 〕の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

わり算では、

※解答は、すべて解答用紙に書き生じよう。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

(3) 【ことねさんの計算の仕方】をもとに、 $600 \div 15$ について考えます。

$$\begin{array}{r} 600 \div 15 = \boxed{\text{■}} \\ \downarrow \boxed{\text{①}} \quad \downarrow \boxed{\text{②}} \quad \text{変わらない} \\ \boxed{\text{③}} \div \boxed{\text{④}} = \boxed{\text{⑤}} \end{array}$$

だから、 $600 \div 15$ の答えの $\boxed{\text{■}}$ は、 $\boxed{\text{⑤}}$ です。

上の①にあてはまるものを、下の〔 〕の中から1つ選び、また、上の②にあてはまるものを、下の〔 〕の中から1つ選んで、それぞれ書きましょう。

ただし、それぞれ、どれを選んでもかまいません。

① $\times 2, \div 3, \div 5$ ② $\times 2, \div 3, \div 5$

さらに、上の③、④、⑤、⑥に入る数を書きましょう。

(4) ゆいなさんは、下の問題について考えています。

問題

リボンを0.6m買ったときの代金が180円でした。 180円
このリボン1m分の代金は、いくらですか。 0.6m

1m分の代金は $180 \div 0.6$ の式で求めることができます。
ゆいなさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。

$$\begin{array}{r} 180 \div 0.6 = \boxed{\text{■}} \\ \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \quad \text{変わらない} \\ 1800 \div 6 = 300 \end{array}$$

だから、 $180 \div 0.6$ の答えの $\boxed{\text{■}}$ は、300です。

$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえます。
下のあからえまでのなかから1つ選んで、その記号を書きましょう。

あ 0.6m分の代金

い 1m分の代金

う 6m分の代金

え 10m分の代金

《参考資料》

今年4月18日に行われた全国学力調査の算数の問題です。

前年度まであった、

1mの重さが12kgの鉄の棒があります。この棒0.8mの重さはなんkgですか。
(平成30年度 算数のA問題より)

という感じの問題(A問題)は、ほとんど出題されなくなりました。

小算-14

小算-15